# 近代建築史 (History of Modern Architecture)

| 本科 | 選択・必修 | 開設時期 | 単位数 | 授業形態 | 担　当 |
|---|---|---|---|---|---|
| 土木建築 | 選択 | 5 年後 | 1 | 講義 | 中川 明子 |

【授業の概要】
近代建築の工法、構造、理論の変化に伴う建築様式、都市の変遷と代表的建築、建築家について学ぶ。

【授業の進め方】
視覚的理解を助けるため、代表事例などはプロジェクターでの投影を行う。視聴覚教材も利用する。授業内容を理解するために、予習復習のための学習ノート（年表形式）を活用する。その提出は期限を決めて行う。

| 【授業の概要】 | 【授業項目】 | 【内　容】 |
|---|---|---|
| 1 回 | ガイダンス<br>西洋の近代建築 1 | 授業ガイダンス<br>産業革命以後の建築 |
| 2 回 | 西洋の近代建築 2 | アーツ・アンド・クラフツ運動 |
| 3 回 | 西洋の近代建築 3 | アール・ヌーヴォー<br>ウィーン・ゼツェシオン／ドイツ表現主義 |
| 4 回 | 西洋の近代建築 4 | ロシア構成主義／デ・ステイル<br>アール・デコ |
| 5 回 | 西洋の近代建築 5 | フランク・ロイド・ライト<br>アメリカの近代建築 |
| 6 回 | 西洋の近代建築 6 | ドイツ工作連盟／バウハウス<br>ミース・ファン・デル・ローエ |
| 7 回 | 西洋の近代建築 7 | ル・コルビュジエ |
| 8 回 | 中間試験 | 西洋の近代建築について問う。 |
| 9 回 | 日本の近代建築 1 | 洋風建築の出現<br>西洋建築技術の輸入<br>伝統技術の西洋化と擬洋風建築 |
| 10 回 | 日本の近代建築 2 | 西洋建築の理解と習熟<br>耐震理論と新構法の展開 |
| 11 回 | 日本の近代建築 3 | 日本の表現主義<br>震災の前後と帝冠様式 |
| 12 回 | 戦後の世界の近代建築 | 戦後の世界の建築潮流<br>アメリカ、ヨーロッパ |
| 13 回 | 戦後の日本の近代建築 | 戦後の日本の近代建築 |
| 14 回 | ポストモダン建築 | ポストモダン建築<br>ヨーロッパ、アメリカ、日本 |
| | 期末試験 | 西洋の近代建築、日本の近代建築、戦後の世界と日本の近代建築、ポストモダン建築について問う。 |
| 15 回 | 解答返却など | 答案返却、総復習。歴史的建造物の保存についての概説。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【到達目標】 | 1.　近代建築の工法、構造の変化に伴う建築の様式、都市の変遷と代表的建築様式の変遷・特徴を理解する。<br>2.「世界に通用する」技術者を目指す者として、日本の建築文化への理解を深め、日本の近・現代建築成立への理解へ一助とすると共に、世界各国の建築文化を自ら学ぶ姿勢を養う。 | | |
| 【徳山高専学習・教育目標】 | C1 | 【ＪＡＢＥＥ基準】 | 1(2)d-1 |
| 【評価法】 | 後期中間試験 45%、後期末試験 45%、学習ノート（年表シート）10% の配分で価する。 | | |
| 【テキスト】 | 西田雅嗣他、『建築の歴史；西洋・日本・近代』、学芸出版社、2003 年 | | |
| 【関連科目】 | 歴史（1 年）、西洋建築史（1 年）、建築デザイン概論（2 年）、建築計画（3 年）、都市計画（4 年）、近代建築史（5 年） | | |
| 【成績欄】 | 前期中間試験【　　】　前期末試験【　　】　前期成績【　　】　後期中間試験【　　】　後期末試験【　　】　学年末成績【　　】 | | |